

未来イノベーション成長株ファンド

追加型投信／内外／株式

モーニングスター アワード 「ファンド オブ ザ イヤー 2020」
国内株式型 部門 『優秀ファンド賞』 受賞



「未来イノベーション成長株ファンド」が、
モーニングスター株式会社
※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)の
「Morningstar Award “Fund of the Year 2020”」
国内株式型 部門におきまして
優秀ファンド賞を受賞いたしました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2020”について

Morningstar Award “Fund of the Year 2020”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスター株式会社※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)が信頼できると判断したデータにより評価ましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2020年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスター※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)が判断したものです。国内株式型 部門は、2020年12月末において当該部門に属するファンド908本の中から選考されました。

※モーニングスター株式会社は2023年3月30日付で、SBIグローバルアセットマネジメント株式会社に社名を変更いたしました。現在、投資情報サービスおよび投信評価事業は同社の子会社であるウエルスアドバイザー株式会社で行っております。

投資対象については、後記の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

未来イノベーション成長株ファンド

月次レポート

2023年
04月28日現在

追加型投信／内外／株式

■基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	12,418円
前月末比	+260円
純資産総額	195.58億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第5期	2022/06/20	0円
第4期	2021/06/21	0円
第3期	2020/06/22	0円
第2期	2019/06/20	0円
第1期	2018/06/20	0円
—	—	—
設定来累計		0円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■騰落率

ファンド	過去1ヶ月	過去3ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去3年	設定来
	2.1%	3.9%	3.9%	-0.9%	33.5%	24.2%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客様ごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

■資産構成

	比率
実質国内株式	84.6%
内 現物	84.6%
内 先物	0.0%
実質外国株式	13.9%
内 現物	13.9%
内 先物	0.0%
コールローン他	1.5%

■組入上位10カ国・地域

国・地域	比率
1 日本	84.6%
2 アメリカ	8.0%
3 スイス	3.0%
4 フランス	1.9%
5 オーストラリア	0.7%
6 香港	0.3%
7 —	—
8 —	—
9 —	—
10 —	—

■テーマ別構成比

テーマ	比率
1 情報通信	49.4%
2 ヘルスケア	29.3%
3 環境	15.3%
4 新素材	4.5%

■組入上位10業種

業種	比率
1 ヘルスケア	24.0%
2 情報技術	22.1%
3 資本財・サービス	19.3%
4 一般消費財・サービス	10.4%
5 生活必需品	8.0%
6 素材	5.1%
7 コミュニケーション・サービス	4.7%
8 金融	3.6%
9 公益事業	1.3%
10 —	—

■組入上位10銘柄

銘柄	国・地域	業種	テーマ	比率
1 そせいグループ	日本	ヘルスケア	ヘルスケア	4.6%
2 第一三共	日本	ヘルスケア	ヘルスケア	4.4%
3 Sansan	日本	情報技術	情報通信	4.2%
4 ソニーグループ	日本	一般消費財・サービス	情報通信	4.0%
5 朝日インテック	日本	ヘルスケア	ヘルスケア	3.7%
6 東京エレクトロン	日本	情報技術	情報通信	3.0%
7 キーエンス	日本	情報技術	情報通信	2.8%
8 インターネットイニシアティブ	日本	コミュニケーション・サービス	情報通信	2.8%
9 JSR	日本	素材	情報通信	2.6%
10 FOOD & LIFE COMPANIE	日本	一般消費財・サービス	情報通信	2.5%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。

・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・国・地域は原則、主要取引所所在地で分類しています。・業種は、GICS(世界産業分類基準)で分類しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

未来イノベーション成長株ファンド

月次レポート

追加型投信／内外／株式

2023年
04月28日現在

■運用担当者コメント

【市況動向】

- ・今月の国内株式市況は、日銀新総裁が金融緩和政策を維持する方針を示したことなどから上昇しました。上旬は、市場予想を下回る米国の経済指標を受けて景気後退懸念が高まったことや一時的に円高米ドル安が進行したことなどを受けて下落しました。中旬以降は、日銀新総裁が金融緩和政策を維持する方針を示したことや円安米ドル高が進行したこと、米国の物価上昇率が市場予想を下回り、金融引き締めの長期化懸念が後退したことなどを受けて月末にかけて上昇基調で推移しました。月間を通してみると、東証株価指数(TOPIX)は前月末の水準を上回って取引を終えました。
- ・海外の主要投資先である米国株式市況は、NYダウは上昇、NASDAQ総合指数も上昇となりました(計算期間は2023年3月30日から2023年4月27日)。

【運用状況(分配金実績がある場合、基準価額の騰落は分配金再投資ベース)】

- ・基準価額は上昇となりました。プラスに寄与した銘柄は「Sansan」、「そせいグループ」、「ソニーグループ」などです。一方で「ペイカレント・コンサルティング」、「アドバンテスト」、「第一三共」などがマイナスに影響しました。
- ・今月の主な投資行動は、「グローリー」、「JSR」、「ウエストホールディングス」を買い付けた一方で、「CKD」、「日立製作所」、「スズキ」などを売却しました。

【今後の運用方針】

- ・当面の株式市況は、米国の金融政策や景況感、欧米を中心とした金融不安等に左右され変動性が一時的に高まる局面も想定されますが、日本企業の企業価値向上に向けた動きが注目され底堅い展開を想定しています。米国のインフレ動向とそれに対応した金融政策の方向性については、金融市場に与える影響が大きいため慎重に動向を見極める必要があると考えているものの、今後インフレの頭打ち傾向や景況感の悪化懸念などを背景に、利上げの打ち止めが視野に入ってくると思われることは株式市況にとっては好材料と考えます。また、国内に関しては東証からの企業価値向上の実現に向けた要請に対応する企業の動きが注目されます。さらに、諸外国と比べ遅れていたコロナ禍からの正常化による消費・投資の回復などが国内企業業績への好材料となると考えます。欧米を中心とした金融不安が完全には払しょくされないことも背景に、引き続き株式市況の変動性が高い展開が続くと想定しますが、こうした局面においては本来の企業価値から大きく乖離したと思われる株価形成がなされることも多く、2023年1~3月期企業決算における個別企業の取り組みや競争力などを精査し投資判断をしていく方針です。

- ・日本株式については、(1)高い環境・安全・燃費技術に関わる自動車・電子部品関連銘柄、(2)インターネット、5G、IoTを活用したサービスやデータ量拡大に対応するための情報通信関連銘柄、(3)バイオ・医療機器を含むヘルスケア関連銘柄などに注目しています。外国株式についても、情報通信関連銘柄やヘルスケア関連銘柄などに注目しています。(運用担当者:内田)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

■GICS(世界産業分類基準)について

・Global Industry Classification Standard("GICS")は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's)が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

未来イノベーション成長株ファンド

月次レポート

2023年
04月28日現在

追加型投信／内外／株式

■組入上位10銘柄コメント

銘柄	銘柄概要
1 そせいグループ	アンメットメディカル(いまだ有効な治療方法が確立されていない疾病)のニーズが高い領域での新規治療薬候補の探索、初期開発に重点的に取り組む国際的なバイオ医薬品企業。神経疾患、免疫疾患などの領域で自社開発中の製品を持ち、新薬の創出などによる今後の業績成長に期待。
2 第一三共	高い創薬技術に強みをもつ国内製薬メーカー大手。2025年のビジョンとして「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」となることを掲げており、国内外での売上拡大と、持続的な利益成長に期待。
3 Sansan	法人向けクラウド名刺管理サービスの「Sansan」などを提供するソフトウェア企業。名刺管理サービスでは国内トップクラスのシェアを誇り、今後も国内での普及拡大で成長が見込まれる。また、様々な形式の請求書をオンライン上で受領可能にするサービスである「Bill One」も契約企業数が増えしており、今後の業績貢献に期待。
4 ソニーグループ	エレクトロニクス事業等のハードウェアに加え、コンテンツサービス等のソフトウェアでの業績拡大を評価。スマホ用カメラから車載用カメラへの拡大が期待されるCMOSイメージセンサーに強み。ソフトウェアではゲームや音楽などコンテンツ配信による継続的な収益拡大に期待。
5 朝日インテック	狭心症や心筋梗塞の治療に使われるPTCA(経皮的冠動脈形成術)ガイドワイヤーが主力製品。素材から製品までの一貫生産体制が強み。日欧では高シェアを獲得。今後は直販化を進める米国でのシェア獲得に期待。
6 東京エレクトロン	半導体製造装置の大手メーカー。半導体を生産する「半導体製造装置」と、スマートフォンやテレビなどに使用されるフラットパネルディスプレイ(FPD)の製造を担う「FPD製造装置」の2つが基幹事業。半導体市場の発展とともに同社の製品需要が増え、更なる業績成長に期待。
7 キーエンス	製造現場などで用いられる自動制御機器、計測機器、画像処理機器などの製造販売を手掛ける。代理店を介さないダイレクトセールスにより、顧客の課題を解決する高付加価値な商品を提供できることが強み。製造現場の自動化・効率化が求められる中、海外の販売比率を上げることによる更なる業績拡大に期待。
8 インターネットイニシアティブ	高度なインターネット関連の技術とサービス開発力を強みに、大企業や官公庁など幅広い顧客向けにサービスを提供。継続的なサービス提供により安定的な収益が見込める強固なビジネスモデルを有することに加え、デジタル化の進展による法人向けネットワークサービス売上の拡大などによる更なる業績成長に期待。
9 JSR	祖業のエラストマー事業を分社化し、ENEOSに株式譲渡するなどの構造改革を実行。半導体材料や医薬品関連のライフサイエンス事業などに経営資源を投入。注力事業と位置付ける半導体事業では、フォトレジストの先端材料で高い市場シェアを有しており、今後の利益成長に期待。
10 FOOD & LIFE COMPANIE	国内回転すし大手。品質の良い食材を高鮮度で調達できる仕入れ網やITシステムを活用した効率的な店舗経営によって、手頃な価格で幅広い顧客層にサービスを届けられることが強み。国内での継続的な新規出店やアジアを中心とした海外展開などによる更なる市場獲得に期待。

・上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。各社ホームページ、その他三菱UFJ国際投信が信頼できると判断した情報に基づき、作成しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

未来イノベーション成長株ファンド

追加型投信／内外／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

日本を含む世界の株式を主要投資対象とし、主として中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

特色1 次の時代を創るイノベーション※を捉えることをめざします。

・次の時代を創るイノベーションを見極め、魅力ある投資テーマを選定します。

・投資テーマに基づき、日本を含む世界の未来を牽引する企業へ積極的に投資することで、将来の高い成長を享受し、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

※当ファンドにおいては、技術の革新にとどまらず、これまでとは違った新たな考え方、仕組み等を取り入れて、新たな価値を生み出すことをいいます。

特色2 日本株を中心に世界の株式に投資を行います。

・ボトムアップ・アプローチによりテーマや産業の分散を意識しながら競争力のある企業を選定します。

　日本の企業を中心に、日本国内に加えグローバルなイノベーションを捉えられる企業に投資を行います。

・組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

特色3 年1回の決算時(6月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク	株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかりることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。
信用リスク	株式の発行企業の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその懸念が高まった場合には、株式の価格が下落すること、配当金が減額あるいは支払いが停止されること、倒産等によりその価値がなくなることがあります。
流動性リスク	株式を売買しようとする際に、その株式の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

未来イノベーション成長株ファンド

追加型投信／内外／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受けたものを当日の申込みとします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外貨為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	2028年6月20日まで(2018年3月27日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年6月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 上限3.30% (税抜 3.00%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)
--------	--

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.6940% (税抜 年率1.5400%) をかけた額
------------------	---

その他の費用・手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
------------	---

※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヶ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034

一般社団法人 日本投資顧問業協会

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

2023年04月28日現在

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:未来イノベーション成長株ファンド

商号	登録番号等		日本証券業 協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社三菱UFJ銀行(インターネット専用)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)(イン ターネットトレードのみ)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。